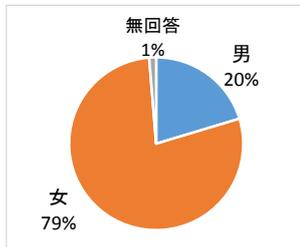


平成30年度 区民のつどい『人生の最期まで口から食べる幸せを！』（H30.10.13）  
アンケート集計結果

参加者	407人
回収数	310枚
回収率	75.7%

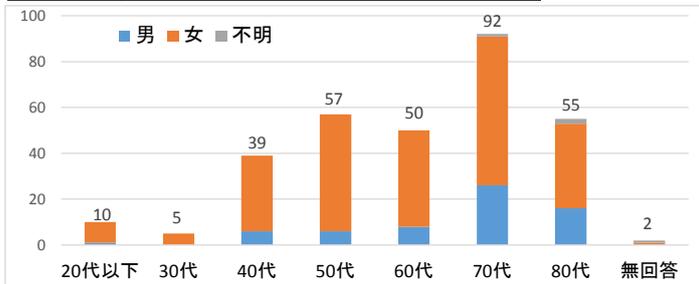
1. 性別

男	63
女	243
無回答	4
合計	310



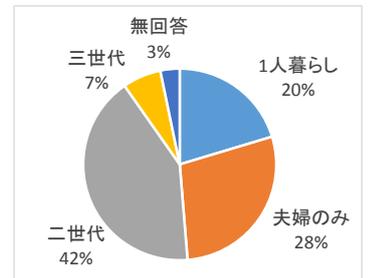
2. 年齢

	男	女	不明		
20代以下	1	9		10	3.2%
30代	0	5		5	1.6%
40代	6	33		39	12.6%
50代	6	51		57	18.4%
60代	8	42		50	16.1%
70代	26	65	1	92	29.7%
80代以上	16	37	2	55	17.7%
無回答		1	1	2	0.6%
合計	63	243	4	310	35.8%



3. 家族構成

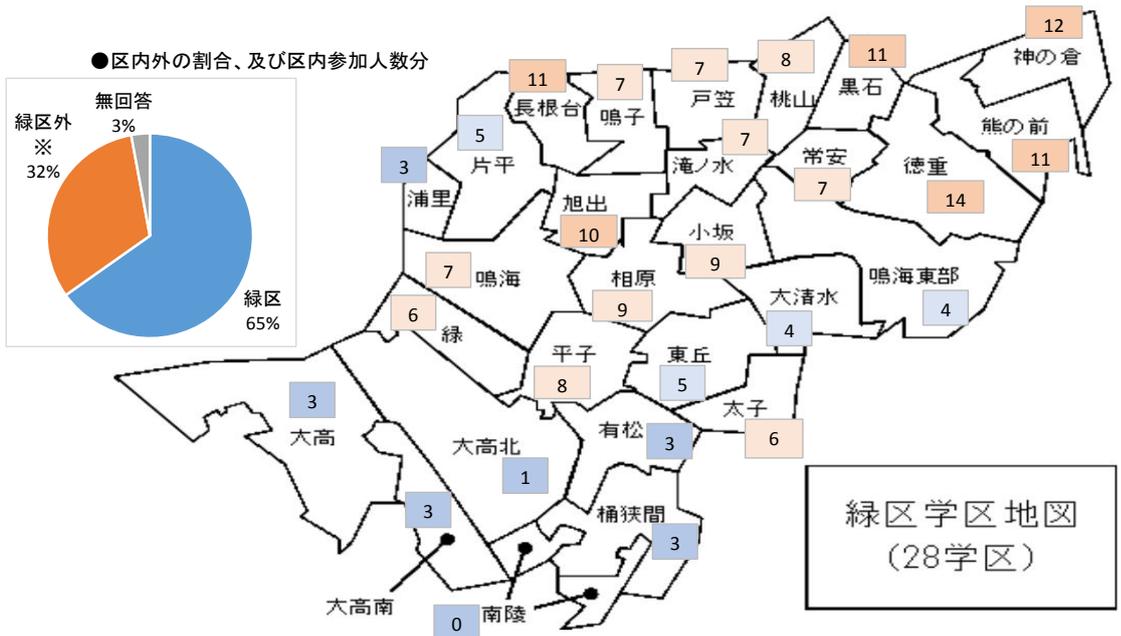
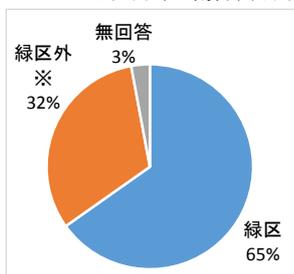
1人暮らし	63
夫婦のみ	88
二世帯	129
三世帯	20
無回答	10
合計	310



4. お住まい

緑区	202
緑区外 ※	99
無回答	9
合計	310

●区内外の割合、及び区内参加人数分



●区内内訳(学区別)

学区	人数
徳重	14
神の倉	12
熊の前	11
黒石	11
長根台	11
旭出	10
小坂	9
相原	9
桃山	8
平子	8
戸笠	7
常安	7
滝の水	7
鳴子	7
鳴海	7
太子	6
緑	6
東丘	5
片平	5
大清水	4
鳴海東部	4
浦里	3
桶狭間	3
大高	3
大高南	3
有松	3
大高北	1
無回答	18
合計	202

●緑区外内訳

区	人数
天白区	24
瑞穂区	9
南区	8
昭和区	7
中川区	4
熱田区	3
北区	3
千種区	2
名東区	1
中区	1
西区	1
中村区	1
名古屋市 (61)	

市	人数
豊明市	5
日進市	4
みよし市	2
春日井市	2
長久手市	1
瀬戸市	1
大府市	1
豊田市	1
安城市	1
碧南市	1
一宮市	1
稲沢市	1
愛知県 (21)	

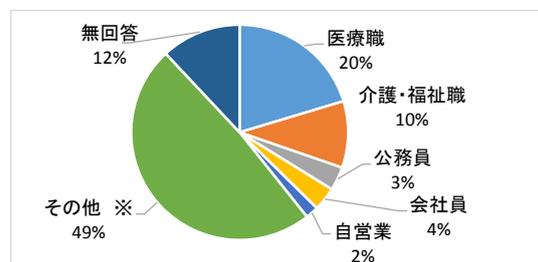
県	人数
岐阜県	3
三重県	2
滋賀県	1
無回答	8
県外 (6)	

5. 職業

職業	人数
医療職	63
介護・福祉職	31
公務員	11
会社員	11
自営業	6
その他 ※	151
無回答	37
合計	310

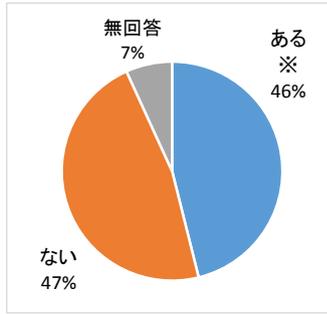
※「その他」内訳

	人数
無職	53
主婦	31
地域等役員	2
パート	3
ボランティア	1
学生	2
無回答	59
合計	151



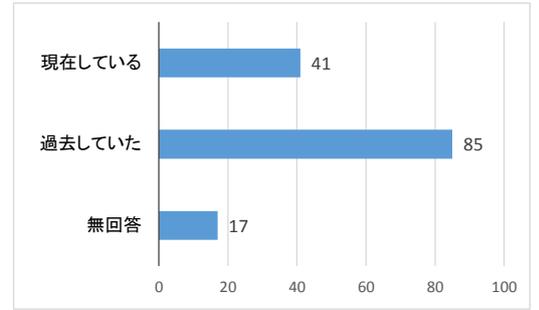
6. ご家族等の介護経験はありますか？

ある ※	143
ない	146
無回答	21
合計	310



※「ある」の内訳

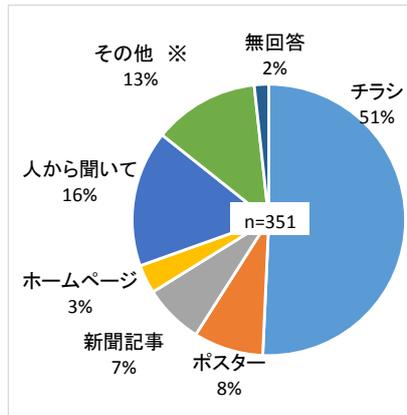
現在している	41
過去していた	85
無回答	17
合計	143



7. この講演会をどのように知りましたか？

(複数回答)

チラシ	178
ポスター	29
新聞記事	25
ホームページ	12
人から聞いて	57
その他 ※	44
無回答	6



※「その他」内訳ほか記述内容

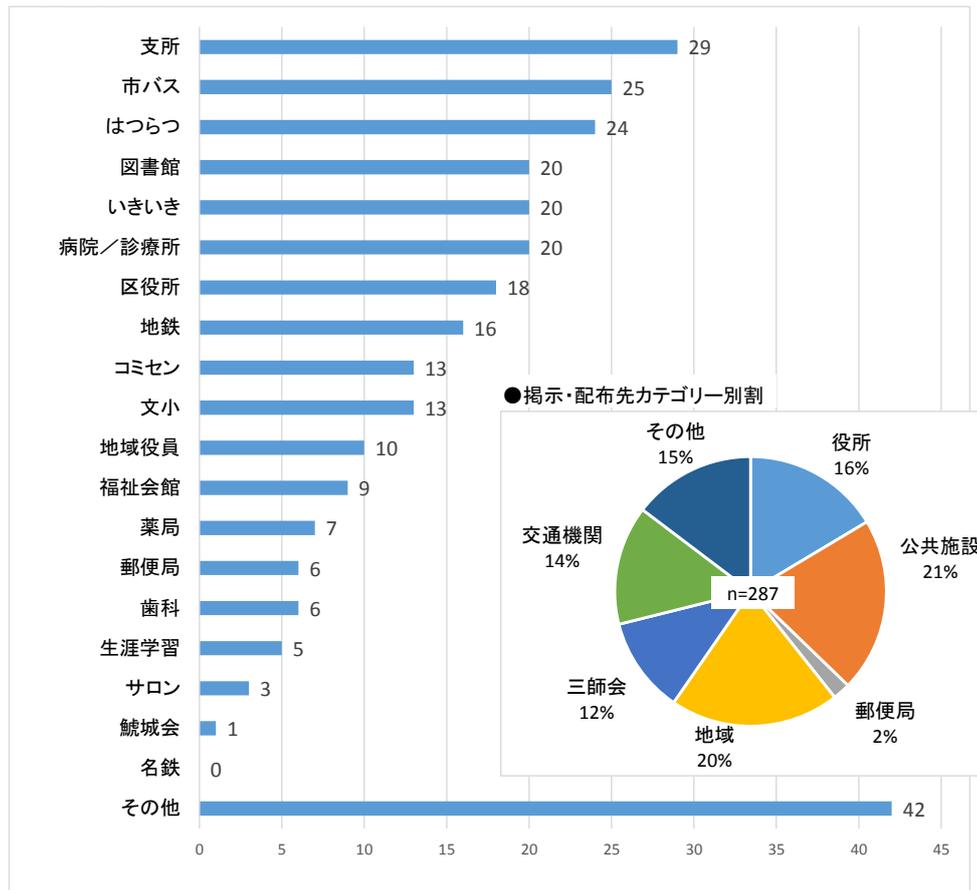
緑区ホームサービス	1
広報なごや	3
回覧	4
ネット	1
講師のNPOホームページ	2
講師のNPO会員	1
いきいき/はつらつ教室	5
ケアマネから	1
職場で	6
研修会・勉強会	2
栄養士連絡会	1
保健環境委員会	3
保健センター	1

●チラシ・ポスターを目にした場所

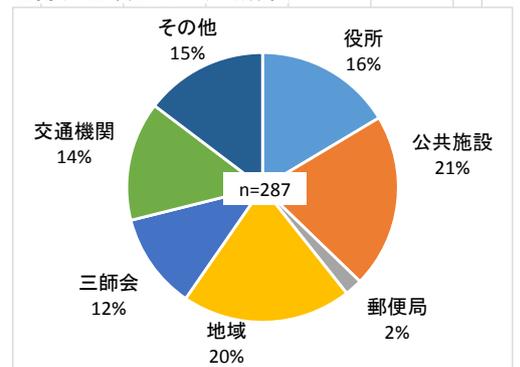
(複数回答)

役所 (47)	区役所	18
	支所	29
公共施設 (60)	コミセン	13
	福祉会館	9
	文小	13
	生涯学習	5
	図書館	20
	郵便局	6
地域 (58)	いきいき	20
	はつらつ	24
	サロン	3
	鯉城会	1
	地域役員	10
三師会 (33)	病院・診療所	20
	歯科	6
	薬局	7
交通機関 (41)	市バス	25
	地铁	16
	名鉄	0
	その他※	42

●回答数順 n=287



●揭示・配布先カテゴリー別割

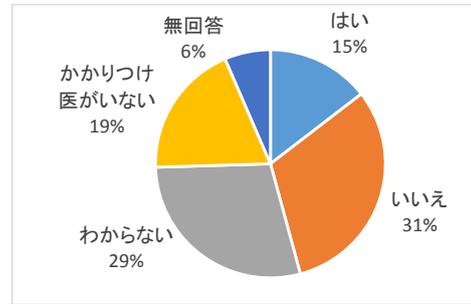
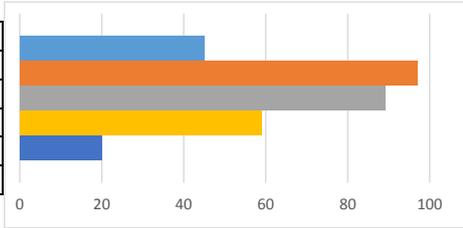


※「その他」の主な内訳

回覧板	7
職場	5
研修	3
ケアマネジャー	2
保健センター	2
講師NPOホームページ、LINE敬老会、たすけあい名古屋、リハビリセンター、眼科	各1

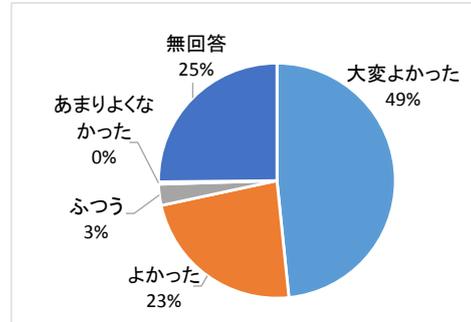
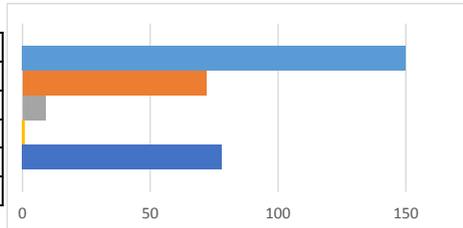
### 8. かかりつけ医の先生は在宅医療を行っていますか？

はい	45
いいえ	97
わからない	89
かかりつけ医がいない	59
無回答	20
合計	310



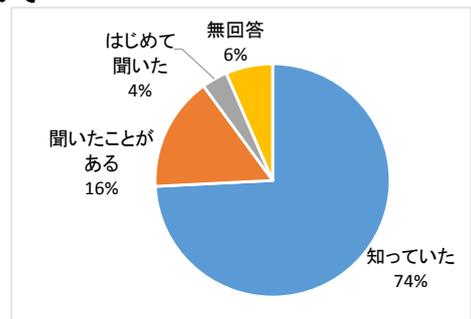
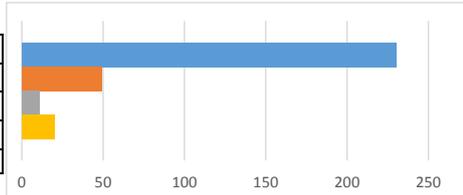
### 9. 講演内容について

大変よかった	150
よかった	72
ふつう	9
あまりよくなかった	1
無回答	78
合計	310



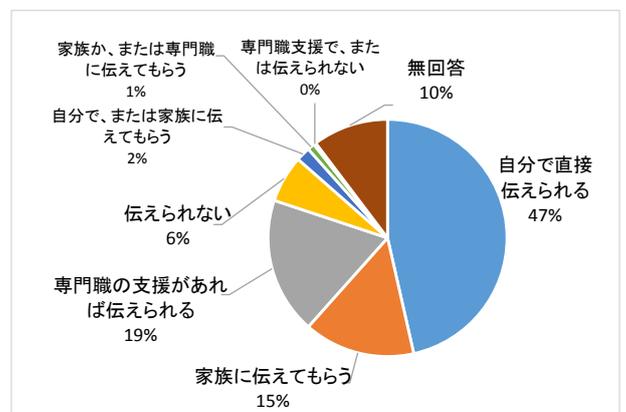
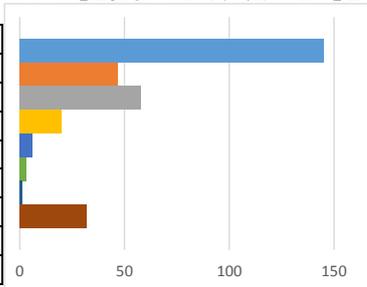
### 10. 摂食・えん下障害や経管栄養(鼻や胃に直接管を通して栄養を摂ること)について

知っていた	230
聞いたことがある	49
はじめて聞いた	11
無回答	20
合計	310



### 11. あなたが病院で「口から食べてはいけない」と言われた時、「食べたい」という希望を伝えられると思うか

自分で直接伝えられる	145
家族に伝えてもらう	47
専門職の支援があれば伝えられる	58
伝えられない	20
自分で、または家族に伝えてもらう	6
家族か、または専門職に伝えてもらう	3
専門職支援で、または伝えられない	1
無回答	32
合計	310

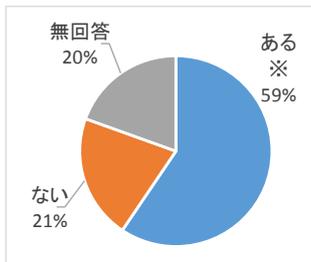


#### ● 欄外コメント

- 自分で直接伝えられる ⇒ ・今なら伝えられると思う。  
・話せば…  
・理由後聞いて納得いかなければ希望を伝えたい。
- 専門職の支援があれば ⇒ 今は解らない、その場の状況によると思う。
- 伝えられない ⇒ 伝えたい！とは思ったが、自分が言われた時伝えられるかわからない。
- 無回答 ⇒ ・自分で伝えられるよう努力したい。  
・自分ではよく伝えられないか。  
・わからない。(4人)  
・嚥下状態による。元気な時に家族と経口栄養の大切さを話しておくことで家族から伝わるかも。  
・言うてはいけない。医療機関、医師の言葉は「絶対服従」だと思っている。  
・逆らえば診てもらえなくなるという気持ちがあるので怖くて言える訳ないと思っている。

12. 摂食・えん下に関する事で、ご自身や家族、身近な人で困った経験は

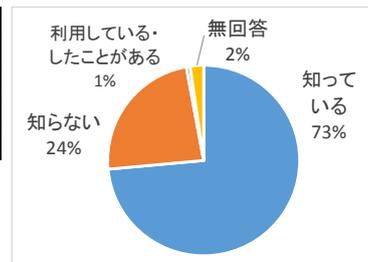
ある※	183
ない	65
無回答	60
合計	310



※下記に内容記載あり

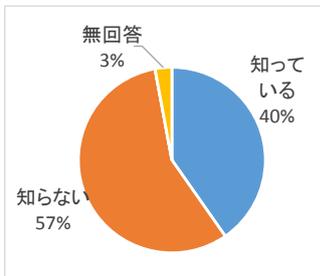
13. 訪問歯科診療を知っているか

知っている	228
知らない	73
利用している・したことがある	2
無回答	7
合計	310



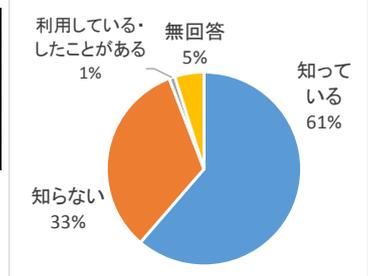
14. 在宅訪問栄養食事指導を知っているか

知っている	125
知らない	176
利用している・したことがある	0
無回答	9
合計	310



15. 在宅医療・介護連携支援センターを知っているか

知っている	190
知らない	102
利用している・したことがある	3
無回答	15
合計	310



※12. 摂食・えん下に関する事で、ご自身や家族、身近な人で困った経験があれば教えてください (どんなことで困ったか具体的に教えてください)

回答数 76/310人

人工栄養法の選択	「胃ろう」という言葉も一般的でなかった昔、医師から「胃ろう」にするか「退院するか」選べと言われた時
	94を過ぎた母の食欲がなくなった時、腕からの点滴が無理と言われた時の選択
	祖母(パーキンソン病)がまさに今、経験栄養の選択を迫られています。
リハビリ・介護	90歳の姉が口から受け付けず、現在点滴だけの生活をしている。年齢から口からの努力は無理と見て見守っている。認知症になっている。父が脳梗塞による嚥下障害を発症。今週リハビリ病院を退院し在宅介護を開始しました。地域に嚥下障害のリハビリに詳しい専門スタッフが少ないため、十分なリハビリが受けられないように感じています。
	90歳の母が食事中にむせることが多くなった。入れ歯(部分)をはめなくなった。歯磨きの回数が減った。
	食べ物を口に持って行ったとき、手を払われて食べさせられない。
	脳出血で口から食べるができなくなった。栄養を取る方法が不安。
	食べ物を細かくしても、ゼリー状のようなものを利用しても、なかなかうまくいかなかった。
	摂食量がどんどん減り、少量で栄養価があり食べやすい形態、味も損なわぬ食事作りがなかなか困難でした。
	保持姿勢の調整の難しさを感じました。食事介助する人の支援スキルの徹底が重要だと思います。
食事を作る家族が栄養や形態に知識や意識がなく、栄養が少なそうなものや好みを考えられておらず、食欲がわかず残してしまう。(例: そうめんのみ) 家族が同居しているのに、一緒に食べようとしないうえに食欲がわかない。	
体験から	両親が嚥下障害になり、最終的に父は胃ろう、母は鼻からの経管栄養になってしまった。もう少し口から食べる努力、リハビリを実施してほしかった。口から食べる介護支援の強化を希望する。
	身内の看取り期、まさに先生のおっしゃった“なんで病院に來ちゃったんだろう”ということが今年ありました。グループホームで最期を迎えられたらよかったかと思う反面、1ヶ月病院で点滴、皆がかわるがわるの会に來れた、どっちが本人にとってよかったのかな?と今も考えてしまう。
	母が胃ろうをつけたとき、胃の方から逆流してとてもかわいそうだった。好きな抹茶アイスも内緒でなめさせていた。口から食べたかった。
	がん末期で食欲がなく、“食べる”ができない日が続きました。そのまま亡くなりましたが、後悔でいっぱいです。
	病院から口から食事をすることはできないと言われ、病院の指導に従うより仕方がないと思い、家族は本人の前では食べる動作を見せないようにしましたが、今日の講演で本人を含め皆が努力すれば回復することがわかり、もっと追求しなかったことをくやみました。
母は7年前に大腸がんでなくなりました。食欲がなく食べさせてあげてを諦めてしまいました。母にずっと申し訳ないと思いつづけています。	
専門職	職場での認知症利用者様への食事介助や口腔ケア実施
	障害児と日々食べる力をつけるために支援、関わりを持っています。よりいろんなケースがあるので、課題は多いです。小山さんのような方がたくさん増えると嬉しいです。私も伝えるために頑張っています。元気をもらいました。
	食べる力を引き出すまでにはマンパワーと時間が必要だが、病院や施設にその余裕がない。
	・神経難病の人が嚥下力低下に伴い、家族の介護力をサポートする時、その日その時により、嚥下の評価が変わる時期の評価。 ・胃ろうがあっても食べたい、食べさせたい方の嚥下力アップとサポートにより胃ろう抜去するまでの医師との連携
	誤嚥になったが、体は治っているのに怖くて食事をミキサー食から普通食に変えることができないなど、心のケアがうまくできないもどかしさがある。
	毎日介食でもっとおいしく食べられるように考えているが、施設の食事はまったくおいしくなさそうです。
	本人は食べたい気持ちがあっても「主治医からは全く相手にしてもらえない」と相談があった。結局胃ろうになった。
	食べたいのに病気のため食べられない飲み込めない状態。医師よりも止められている。舌の上へのせ味のみ楽しんでもらった。
	入院中、家族がゼリーを食べさせたい(本人も望んでいた)と言っても、誤嚥があるといけなからと言われ、患者に食べさせることができなかった。
	嚥下について自分自身のスキル不足で援助が上手にできなかったし、アプローチも難しい。嚥下のトレーニングの勉強がしたい。
食事をする時の姿勢が人それぞれであること。	
入れ歯があわなくなる、歯医者になかなか行けない	

●ご要望(聴いてみたい講演内容等)、ご感想などがございましたらお聞かせください。

回答数 60/310人

市民 (感想)	主人がALSです。まだ元気で生活しておりますが、近い将来食事について考えなくてはならないと思いますのでお邪魔しました。「医師の関わり方」「食事の大切さ」を学びました。
	最初のテレビと最後のビデオが、一番よくこの講演の伝えたことがよりよくわかった。映像が一番人の心に訴える。感動的だった。小山さんが何人も必要だと思った。今日の情報を得た人はほんのわずかの人たちだと思います。もっと全国の人々にこの内容を知って頂きたい。素晴らしい内容だった。
	「若い」に気づくこと、知ることの大切さを学ばせていただきました。
	口から食べる重要性、食べる時の姿勢、肘の保持など参考になることがたくさんありました。
	早期に床から離れ、車いすに乗り、食べるリハビリをすることの大切さを痛感した。
市民 (要望・質問)	私たちが知らなかった経口飲食の大切さがとてもよく理解できました。ありがとうございました。
	病院から(口から)の働きかけがなく、家族に口からの手段も方法もない場合はどうしたらいいのでしょうか？どこかで講習会でもあればいいですが。
	名古屋市内で口から食べられる病院・施設があれば知りたい。
	食事介助のポイントが聞きたかったです。
	食事介助についての重要性を今回改めて気づきました。正しい食事介助方法を知る機会が欲しいです。
専門職	先生の実技講習会を一般の介護家族も受講できるような機会を是非作ってほしい。(奈良県で。又は近畿地区で)ネット検索をよくしていますが、一般の介護家族は受講できないみたいなので。
	医療従事者ですが、緑区市民の方の医療に対する意識の高さにおどろきました。病気になった時に、自分の意思を伝えられるように準備しておくことが大事ですね。
	もっと医療従事者の意識をレベルアップするべく、たくさん参加する必要がある。でないと、家族の要望にこたえられないなあと強く感じました。医療に従事する者として。 口から食べることの危険だけでなく、利点も医療従事者は知り、患者さんやご家族に説明できなければいけない。そして本人の願いの実現に努力していくことが大切だと思った(アセスメントしつつ)

聴いてみたいテーマ

在宅医療	在宅医療の面白い話、経験や事例や実際にあったできごとなど。／在宅医療の注意すること。緊急時の対応など。
認知症	嚥下が難しくなった認知症老人へのアプローチパターンをたくさん知りたい／認知症ケア／認知症のひととの接し方／認知症予防
介護	介護の全般。老後の暮らし方など。／老々介護／腰痛にならない介護方法
その他	誤嚥予防について。腰痛予防について。／足腰の強化運動／運動・食事